

国際交流基金助成報告書

薬学部 2年次 H.O

1.はじめに

2026年3月4日から3月27日までタイのシーナカリンウィロート大学への交換留学に参加させていただきました。この留学での活動を報告いたします。

2.交換留学での目標

今回の留学では、大きく2つのことを目的としました。1つ目は、現地での学習を通して日本との違いを理解し、自分の専門性を国際的な視点から見直すことです。2つ目は、異文化の中で生活し、現地の学生や先生方と交流することで語学力だけでなく、広い視野や柔軟性、協働力を身につけることです。約1ヶ月間滞在することができたため、タイの医療や文化などについてしっかりと学ぶことができました。また、現地の学生とコミュニケーションをとったり、薬学英语を用いたりする機会もあったため語学力も向上させることができました。

3. 大学について



シーナカリンウィロート大学 (SWU) バンコク都心部のアソークとナコーンナーヨーク県のオンカラックに2つのキャンパスを持ち、源流の教育学を基盤に、現在では、人文科学、社会科学、理学、工学、経営学、農学、医学、薬学などを含めた総合大学として発展しています。薬学部はオンカラックのキャンパスにあり、キャンパス内はとても広く、敷地内には大きな池、寺院やカフェテリア等様々な施設があります。学内の移動はほとんどの学生が無料で乗れる学校のシャトルバスかバイクで行っていました。私達は大学内の寮に滞在し、その寮から薬学部棟に通っていました。SWUの学生は英語を話せる人が多く、親切で積極的に話しかけてくれました。日本やタイについて話したり、日本語・タイ語をそれぞれ教えあったりしました。

4.授業内容

SWUでは、学生の授業や大学院生による研究室での授業、地域の健康増進病院でのインターンに参加させていただきました。授業の内容は日によって異なりました。

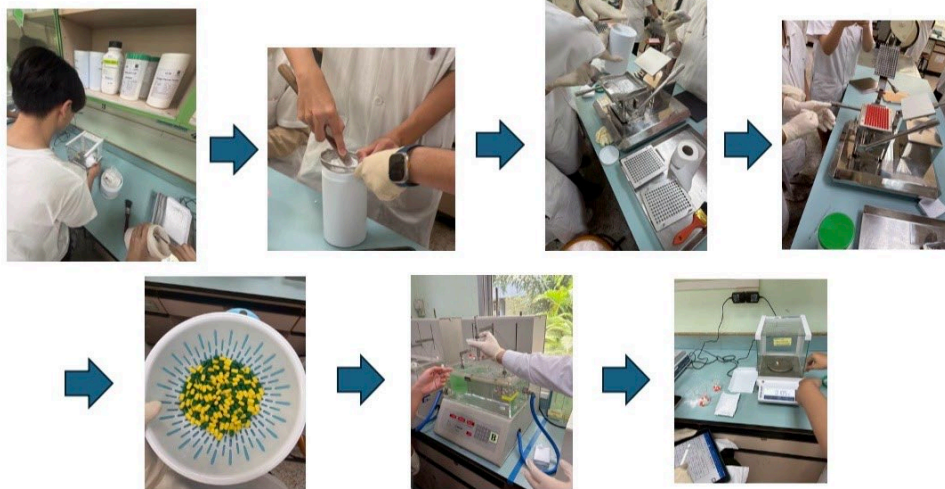
大学院生による研究室での実習では ACV エマルジェルの作製を行いました。ティーツリーオイルとアップルサイダーの濃度を少しずつ変え、6種類のエマルジェルを作製しました。ビーカーを氷に浸しながらかき混ぜて、粉末を水に完全に溶かす作業に手間取りましたが、大学院生にサポートしていただき、きちんと作製することができました。

Ingredient	% w/w					
	Rx1	Rx2	Rx3	Rx4	Rx5	Rx6
ACV	5	5	5	10	10	10
Poloxamer407	20	20	20	20	20	20
Tea tree oil	0	0.5	1	0	0.5	1
Tween 80	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
Propylene Glycol	5	5	5	5	5	5
Ethanol	5	5	5	5	5	5
Purified water q.s. to	100	100	100	100	100	100



また、三年生の製剤の実験にも参加させていただきました。6班に分かれて実験を行っており、私たちはそのうちの3班にそれぞれ1人ずつ分かれて実験に参加させていただきました。班の人が英語で実験内容や器具の説明をしてくれたり、作業をさせてくれたりと、積極的に実験に参加することができました。実験の大まかな流れは以下の通りです。

製剤の実験



さらに、5回生の病院でのインターンにも同伴させていただきました。訪問した病院はいずれも地域の健康増進病院で、生活習慣病の患者さんを中心に診療を行っていました。



薬は種類ごとにジップロックに入れられ、患者さんの名前、薬の名前、服用方法（いつ・何回服用するか）が記載されたシールが貼られていました。生薬の処方もありました。インターンは学生主体で行われており、服薬指導は基本学生が一人で行い、先生は補助程度で何か疑問などが生じた際に先生に質問をするという形で行われていました。

私たちは服薬指導の見学と薬の監査をさせていただきました。限られたスペースで薬の取り揃えから監査、服薬指導まで行っているため、他の患者さんのものと混同しないように何度も丁寧にチェックを行っていました。学生さんはカルテから情報を収集し、患者さんのペースに合わせて会話して、しっかりと服薬指導を行っていました。



5.課外活動

課外活動としてタイ国立科学館に行きました。6階建てになっており、Zone 1 から Zone 6 までありました。特に Zone 6 ではタイの伝統的な技術についての展示がされていました。展示物はタイ語で書かれていましたが、引率の教授が英語で説明してくれたおかげで理解して観ることができました。タイの伝統的な生薬の展示もされていました。



6.最後に

今回の留学を支えてくださったシーナカリンウィロート大学の教授の皆様、そして現地で出会った学生の皆様のおかげで、非常に充実した時間を過ごすことができました。さらに、スミス先生をはじめ、国際交流委員会や関係者の皆様のおかげで安全で円滑な留学生活を送ることができました。そして、一緒に留学生活を過ごした先輩方、今回の留学に携わってくださった全ての方々に心から重ねて感謝申し上げます。

このような貴重な機会をいただけたことに深く感謝するとともに、今回の経験を今後活かしていきたいと思えます。